

木村無相

煩惱と信心と念仏に生きて

口述

念仏詩抄

明治37年 熊本県八代市生まれ。
昭和36年 熊本県同朋会館で門衛所勤務
昭和48年 『念仏詩抄』が出版される
生涯千編余りの詩を書く
福井県に移り住む
昭和52年 NHKラジオ 宗教の時間
「私の詩と信仰」放送
昭和58年 NHKラジオ 宗教の時間
「煩惱と私」放送
昭和59年 79歳 武生市 林病院にて寂

この作品は、木村無相さんが二十歳の頃、一家離散という境遇で育ち、人生が不安で外ばかりに眼が向けられていたものが、急に内側に眼が向けられ「私の生きる道はどうも仏教にあるらしい」と求道生活に入り各地を遍歴します。最初は四国遍路をしたのですが、年を重ねるうち高野山（真言）で僧侶の資格まで取ります。しかし、十七歳の時に読んだ『歎異抄』が気にかかり、浄土真宗の他力の教えを学ぶため、徳島県や三重県、滋賀県に師を求めて聞き歩きます。

五十九歳になり、真宗大谷派の研修部長の招きで同朋会館にやって来ました。そしてここで12年間を過ごし、本山や同朋会館に出入りする人々を見つめて、その折り感じたことをノートにメモして「念仏詩」として、名古屋の聞法誌「慈光」に投稿しました。「信者になつたらおしまいだ」等の詩を読んだ龍谷大学学長の千葉乗隆先生は、無相さんに出版を薦め永田文昌堂から『念仏詩抄』として発行されました。もう一人、福井県池田町の誠徳寺の加茂さんも、この詩に感動し同朋会館に会いに来たのが機縁となり、無相さんは福井県の老人ホームに引越したのです。

この作品は無相さんが、生涯迷い続けた「煩惱」と「信心」と「念仏」をどのように受け止めたか、アルバム写真や、80冊あまりのノート、加茂さんに宛てた手紙、金光寿郎さんの番組「NHK宗教の時間」で放送された内容を通して、無相さんの生きざまを描きました。

「煩惱」と「信心」と「念仏」をどう受け止めたか、この作品をご覧ください。
あなたの信心・念仏ちがいませんか。



生前葬を勤める前に散髪



無相さんを福井県に招いた誠徳寺住職の加茂淳光さん



平成20年4月6日無相さんの二十五回忌法要で講演する金光寿郎さん

エピソード1

無相さんは若くして一家離散、身寄りもないためか生前葬を行い、遺体は遺言どおり**献体**に出された。亡くなって暫くすると有縁の人に死亡通知書が届けられた。生前用意していたのが発送された。

エピソード2

無相さんの部屋は仏教の本でいっぱいだ。しかし、部屋に**お内仏**（**仏壇**）があったと確認されていない。壁に吊るされていたのは良寛像の絵と俳句「炊くほどに風が持て来る落葉かな」

エピソード3

山頭火と同じ部屋で寝食を共にし、放浪を続ける無相さんに、山頭火は「流浪はやめなさい。ちゃんとした生活につきなさい。あなたはまだ若いだからと、毎夜さとされた」といいます。



35歳の無相さん（上）と山頭火（下）



養護老人ホーム太子園でくつろぐ無相さん70歳（昭和49年10月14日撮影）

取材協力 木村無相翁二十五回忌法要世話会 福井県越前市瓜生町三十三の二十の一和上苑気付/資料提供 和上苑 木村無相文庫・誠徳寺 加茂淳光/音源提供 口述「念仏詩抄」口述「歎異抄」 加茂淳光・NHK宗教の時間「煩惱と私」昭和五十八年七月二十四日放送 /撮影協力 越前市瓜生町 和上苑上宮寺・池田町水海 誠徳寺・川崎市 金光寿郎（二十五回忌法要記念講演）/参考図書 『念仏詩抄』『続念仏詩抄』『続々念仏詩抄』永田文昌堂発行・『木村無相追悼号 相念』和上苑発行・『無相さんを偲んで』木村無相翁二十五回忌法要世話会発行/ナレーション KANTA

ご注文は直接お申込みください

075-343-0240

FAX 075-371-0871

制作・著作・発売元

インターネットショップ
http://www.snail.co.jp/
仏教伝道教材の

すねいる



木村無相 煩惱と信心と念仏に生きて

DVDで発売 50分 定価 9,000円（税抜）